

## 弘前大学COI

### 健康リテラシー向上のための「QOL健診プログラム」

非感染性疾患による早世の減少を目指し、健康リテラシーを高める「QOL健診プログラム」の普及によって栄養改善に貢献します。日本で最も寿命が短い青森県で実施してきたコホート研究に基づき、健康チェックによって健康課題の可視化と動機づけを行い、その場で栄養等の健康リテラシー教育を実施、その後、実生活の中で食生活などの改善を支援するプログラムを確立。2030年までに国内外の100万人に提供し、世界の健康格差の解消に役立てます。

#### <目標・取組>

文部科学省センターオブイノベーションプログラムとして取り組んでいる研究・社会実装活動を発展させ、以下の達成に向けて取り組みます。

- ①「QOL健診プログラム」を継続的に提供するための体制組織を2022年中に確立する。
- ②「QOL健診プログラム」を確立し、その社会医学的有用性を2023年中に検証する。
- ③2030年までにプログラムを国内外で100万人に提供する。（青森から始め、日本全国およびベトナムなどへ展開。）
- ④中小企業を中心とした職場を通じて2030年までに50万人の労働者にプログラムを提供する。
- ⑤リテールを通じて2030年までに50万人にプログラムと健康的なショッピングの支援を提供する。
- ⑥職場や地域で健康増進の推進役となる人材を2030年までに5万人育成する。

#### <達成状況（2023末時点）>

- ①青森県医師会健やか力推進センターを設立し（2015）、QOL健診を移管（2022）、利用者負担で運営する体制を確立した。研究は大学が継続。
- ②標準型、簡易型の2形態のQOL健診を開発、実用化（2022）。社会医学的意義と有用性を論文化。公開済み1報、投稿中2報。
- ③2024年3月現在、累計8477人にプログラムを提供。うち最後の1年で4293人。
- ④2024年3月現在、職域を通じて累計4658人にプログラムを提供。うち最後の1年で2228人。
- ⑤2024年3月現在、流通を通じて累計95人にプログラムを提供。
- ⑥2024年3月現在、累計5421人のすこやか協力隊員等を育成。

### <目標に向けた今後の取組>

- ①弘前市とQOL健診を軸とした住民の健康増進施策を開始。SIB/PFSを含む持続性を可能にするしくみを検討中。
- ②より多様なチャンネルとターゲットをカバーするため、今後もプログラムの開発を継続。
- ③第三者へのライセンスによるプログラムの展開を開始。海外ではベトナム、フィジーでの活動を開始。2023年ベトナムで90名にプログラムを提供。
- ④生命保険企業へのライセンスによる職域での展開を開始。
- ⑤青森県内のコープ店舗で実施したプログラム「コープすこやかショッピングサポート」の有用性を論文投稿中。リテールへのライセンスによる展開を検討。
- ⑥青森県医師会に設立した「健やか力推進センター」が育成を行う。

### <関連情報>

<https://coi.hirosaki-u.ac.jp/social/>

#### (東京栄養サミットアクションプランにおいて賛同した項目)

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 食料システムの変革        | <input checked="" type="checkbox"/> 個人の栄養に関する行動変容の促進 |
| <input type="checkbox"/> 食関連産業のイノベーションの推進 | <input checked="" type="checkbox"/> 途上国・新興国の栄養改善への支援 |

#### 【企業・団体の概要】

<https://coi.hirosaki-u.ac.jp/>